

高知大学歯科医師臨床研修プログラム

1. 臨床研修プログラムの名称：高知大学歯科医師臨床研修プログラム（複合型）
2. 研修管理委員会の名称：高知大学医学部附属病院歯科医師卒後臨床研修管理委員会
3. 参加施設の概要

・管理型臨床研修施設

施設名：高知大学医学部附属病院

所在地：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

病院長：執印 太郎

医療人育成支援センター長：渡橋 和政

研修プログラム責任者：山本 哲也（歯科口腔外科）

事務部門担当者：笠井 早苗

・協力型臨床研修施設（9施設）

| 施設名・所在地 | 臨床研修 施設長 | 事務部門 の責任者 |
|--|-------------|--------------|
| アーク歯科・矯正歯科クリニック 〒780-0981 高知市一ツ橋町1丁目145番地3 | 北村 清太 | 北村 清太 |
| あさぎ歯科医院 〒781-8104 高知市高須2-3-50 | 浅埜 尚人 | 浅埜 尚人 |
| 医療法人 口誠会 大野歯科 〒780-0935 高知市旭町3丁目67番地1 | 大野 彰彦 | 大野 牧子 |
| 医療法人 オダ・デンタルオフィス 織田歯科医院 〒780-0861 高知市升形4番14号 | 織田 英正 | 織田 展輔 |
| 医療法人 孝訓会 さんさんクリニック 歯科 〒780-0862 高知市鷹匠町1丁目1-8 | 中野 孝三郎 | 中野 孝三郎 |
| 医療法人 嶋本会 嶋本歯科医院 〒780-0821 高知市桜井町1丁目9番35号 | 嶋本 道晴 | 嶋本 道晴 |
| 医療法人 翔和会 田岡歯科・矯正歯科クリニック 〒780-8052 高知市鴨部1丁目10-33 | 田岡 雄 | 田岡 雄 |
| 松木歯科医院 〒780-0051 高知市愛宕町4丁目13-4 | 松木 宏真 | 松木 宏真 |
| 医療法人 泰和会 森本歯科診療所 〒783-0004 南国市大桶甲1218番地 | 前田 好正 | 上田 泰子 |

・研修協力施設（1施設）

| 施設名・所在地 | 施設の 管理者 | 事務部門 の責任者 |
|---|------------|--------------|
| 高知県歯科医師会歯科保健センター 〒780-0850 高知県高知市丸の内1丁目7番45号 総合あんしんセンター | 織田 英正 | 上田 健一 |

4. 研修歯科医の募集方法

大学のホームページで公募する。

採用者の選考は、歯科医師臨床研修マッチングにより行う

5. 研修歯科医の処遇

高知大学医学部附属病院

(a) 常勤・非常勤の別 : 非常勤

(b) 研修時間等

①研修は、週5日38.75時間制とする

②研修時間：8時30分～17時15分（シフト制勤務有り）

③時間外勤務あり

④研修中のアルバイトは認めない

⑤当直 : 月5回程度

⑥年次有給休暇 : 1年次10日、2年次11日

⑦リフレッシュ休暇 : 年3日

⑧その他休暇 : 各種特別休暇

(c) 給与・手当

1年次,2年次とも

①基本給 : 日給9,080円（月額約185,000円）

②臨床研修手当 : 一年次 月120,000円

二年次 月140,000円

③超過勤務手当 : あり

④当直手当 : あり

⑤その他手当 : 診療特別手当

(d) 宿舎 : レジデントハウス（単身用）、職員宿舎

(e) 研修歯科医用のための施設内の室 : あり

(f) 社会保険・労働保険

①公的医療保険 : 全国健康保険協会

②公的年金保険 : 厚生年金保険

③労働者災害補償保険法の適用 : あり

④雇用保険 : あり

(g) 健康診断 : 年1回

(h) 歯科医師賠償責任保険：病院において加入する。個人についてはオリエンテーションの説明会において加入を勧めている。

(i) 外部の研修活動

高知県歯科医師会歯科保健センターでの障害児・者歯科診療への参加
(但し、管理型臨床研修施設での研修期間中に限る)

学会,研究会等への参加：可

学会,研究会等への参加費用支給：あり

6. 問合せ先

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部・病院事務部総務企画課地域医療支援室臨床研修係 笠井 早苗

TEL：088-880-2208

FAX：088-880-2192

メール：is05@kochi-u.ac.jp

オリエンテーション

【一般目標】

研修開始に必要な基本的臨床技能や知識の教育と到達レベルのチェックを行い、患者さんにとっても、研修歯科医にとっても安全な研修生活を確立する。

【行動目標】

(1) 保険診療の留意点

- SBO 1 医療経済の特殊性を説明できる
- SBO 2 医療費と国民経済の動向について述べるができる
- SBO 3 医療保険制度と診療報酬体系について説明できる
- SBO 4 保険診療にかかわる用語（処置、指導料、特定疾患など）を説明できる
- SBO 5 療養担当規則に従って、適正な保険診療を行うことができる
- SBO 6 情報の開示に耐えうる保険診療を行うことができる
- SBO 7 保険診療外の医療行為が、時に存在することを説明できる
- SBO 8 査定を受けやすい保険請求を列挙できる
- SBO 9 査定されやすい保険請求にはあらかじめ理由書を添付できる
- SBO10 査定された保険請求の再審査請求を行うことができる

(2) 電話対応

- SBO 1 言葉と抑揚だけでコミュニケーションする困難さを述べるができる
- SBO 2 身内の人間を（電話の会話で）呼び捨てにすることができる
- SBO 3 復唱し、正確に伝言できる
- SBO 4 電話の向こう側の人の事情・心情に配慮できる
- SBO 5 医療情報を電話で伝えることの危険性を述べるができる
- SBO 6 必要な項目について上司に相談できる

(3) セクシャリティー

- SBO 1 診療時のセクシャリティーの意味を説明できる
- SBO 2 異性診察時のセクシャリティーに配慮する処理をとることができる
- SBO 3 （両性の）診察を受ける際の羞恥心に配慮できる
- SBO 4 短時間、診療の席を外すときの配慮をすることができる

(4) マナー・車椅子・病院ボランティア

- SBO 1 附属病院の受付業務の時間的概要が説明できる
- SBO 2 介助の必要な患者さんを識別する気持ちがある
- SBO 3 車椅子の設置場所を述べるができる
- SBO 4 車椅子の移送時の安全に関する留意点が列挙できる
- SBO 5 車椅子を安全に扱うことができる
- SBO 6 附属病院の不便なところを指摘できる
- SBO 7 医師患者さん間、医師コメディカル間でのマナーの重要なポイントを説明できる

(5) 麻薬・向精神薬の使い方・取扱い

- SBO 1 注射用麻薬を列挙できる
- SBO 2 経口麻薬を列挙できる
- SBO 3 注射用麻薬処方箋の必要な項目を記入できる（ある程度ユニバーサルに）

- SBO 4 (経口の) 麻薬処方箋の必要な項目を記入できる
- SBO 5 注射用麻薬の取扱い上の注意事項を述べることができる
- (6) 消火訓練・消火栓・防災訓練
- SBO 1 火災時の院内対応を述べることができる
- SBO 2 夜間の火災時の消火体制、連絡体制を説明できる
- SBO 3 防災マニュアルの存在を説明できる
- SBO 4 消火器を扱うことができる
- SBO 5 火災・災害時にチームの一員として活動する習慣をつける
- (7) BLS (Basic Life Support)
- SBO 1 意識の有無を確認できる
- SBO 2 意識がない患者さんに接して、人を呼ぶことができる
- SBO 3 呼吸の有無を確認できる
- SBO 4 (無呼吸時に) 気管内異物を確認できる
- SBO 5 気道の確保ができる
- SBO 6 人工呼吸ができる
- SBO 7 脈拍の確認ができる
- SBO 8 心臓マッサージができる
- SBO 9 気管内挿管の適応を判断できる
- SBO10 気管内挿管ができる
- (8) 医療面接から治療計画
- SBO 1 ラポールが形成できる
- SBO 2 診断に必要な情報が採取できる
- SBO 3 一般的な事項をチェックできる
- SBO 4 身体診察、検査への準備ができる
- SBO 5 患者さんに安心感と満足を提供できる
- SBO 6 コミュニケーションがとれる
- SBO 7 身体診察ができる
- SBO 8 問題点が抽出できる
- SBO 9 検査計画を立てることができる
- SBO10 治療計画を立てることができる
- SBO11 コンサルテーションすることができる
- SBO12 診療録の記載ができる
- SBO13 社会的要因や家庭環境に配慮できる
- (9) 救急室・救急搬送・頸椎損傷
- SBO 1 ストレッチャーを安全に扱える
- SBO 2 患者さんをストレッチャーからギャッジベッドに安全に移動できる
- SBO 3 バイタルサインがとれる
- SBO 4 酸素ボンベを取り替えることができる
- SBO 5 心疾患の救急の検査項目が列挙できる
- SBO 6 頸椎損傷の可能性を考慮できる

- SBO 7 頸椎損傷の可能性がある場合、頸椎のサポーターを使用できる
- SBO 8 吸引瓶をセットできる
- SBO 9 吸引を行うことができる
- SBO10 酸素流量を指示できる
- SBO11 酸素を配管から患者さんへ接続できる
- SBO12 院内感染に配慮して、創傷の処置、吸痰を行うことができる
 - (10) 院内感染
 - SBO 1 標準的予防策の励行の重要性を述べることができる
 - SBO 2 感染経路別予防策の対象と要点を述べることができる
 - SBO 3 手袋を着脱するタイミングと、手洗いの重要性を述べることができる
 - SBO 4 適切に手袋の着脱を行うことができる
 - SBO 5 コメディカルスタッフと、清潔不潔を区別したコミュニケーションを取ることができる
 - (11) 診療録の書き方
 - SBO 1 保険診療における診療録の役割を説明できる
 - SBO 2 問題志向型システム (POS) と問題志向型診療録 (POMR) 概略を説明できる
 - SBO 3 問題志向型診療録の基本形式 (S.O.A.P.) に従って、診療録が記載できる
 - SBO 4 読みやすい文字で、わかりやすい表現や図を用いて診療録を記載できる
 - SBO 5 診療録を適切に訂正できる
 - SBO 6 退院時診療抄録をすみやかに、かつ、必要十分な内容で記載できる
 - SBO 7 入院診療計画書をすみやかに、かつ、適切に記載できる
 - SBO 8 退院療養計画書を、必要に応じて、すみやかに、かつ、適切に記載できる
 - (12) 病歴管理の基本
 - SBO 1 診療録の意義、法的意義を述べることができる
 - SBO 2 電子カルテ、オーダリングの法的根拠を説明できる
 - SBO 3 医療スタッフ間で、問題点や対策を共有・討議できる
 - SBO 4 診療録に正確な記載ができる
 - SBO 5 診療録の訂正を正しく行うことができる
 - SBO 6 診療録を正しく管理できる
 - (13) 医療と法律
 - SBO 1 診療録とは何かを説明できる
 - SBO 2 医師の説明義務について説明できる
 - SBO 3 説明義務の発生時期について述べることができる
 - SBO 4 説明が不要であるとされるケースを列挙できる
 - SBO 5 説明の際の留意点を述べることができる
 - SBO 6 説明の対象、範囲、相手方などについて述べることができる
 - (14) 紹介状・返事の書き方
 - SBO 1 紹介状に必要な項目を述べることができる
 - SBO 2 返事は2通以上必要である理由を述べることができる
 - SBO 3 紹介を続けてもらうコツを述べることができる
 - (15) ショックの見方

- SBO 1 ショックの定義を述べることができる
- SBO 2 ショックの分類を列挙できる
- SBO 3 ショックの病態と鑑別疾患について説明できる
- SBO 4 ショックの患者に必要な、検査項目を列挙することができる
- SBO 5 ショックに用いられる救急薬剤の種類・適応・使用法を述べるができる
- SBO 6 ショックに対する酸素投与、気道確保、呼吸管理の適応について述べるができる
- SBO 7 ショックに対する初期対応（下肢挙上、血管確保、血糖チェックなど）ができる

（16）研修歯科医の病院生活

- SBO 1 研修歯科医の制度、身分を説明できる
- SBO 2 研修歯科医の服務規程を説明できる
- SBO 3 服務規程を遵守する習慣をつける
- SBO 4 採用時・在職中・退職時の諸手続・届け出服務規程を適切に行うことができる

（17）メディカル・リスクマネジメント「医療事故の現状」

- SBO 1 医療事故にはどのようなものがあるか列挙できる
- SBO 2 医療事故の発生要因について説明できる
- SBO 3 患者及びそのご家族との信頼関係確立の重要性が説明できる
- SBO 4 診療録を、正しく、時間をおかず記載することができる
- SBO 5 指導歯科医等へ報告すべき事項を列挙できる
- SBO 6 指導歯科医等と緊密な関係を築くことができる
- SBO 7 チーム医療において、自分の責任を果たすことができる
- SBO 8 医療事故発生後には、指導歯科医等とともに適切な対応ができる
- SBO 9 医事紛争処理のしくみを述べるができる

（18）死亡診断書の書き方

- SBO 1 死亡診断書の意義と、死亡診断書・死体検案書の区別を述べるができる
- SBO 2 警察への届け出が必要なケースを述べるができる
- SBO 3 死因の重要性（統計など）、死亡時刻の重要性を述べるができる
- SBO 4 死亡診断書を正しく記入できる

（19）意識障害の見方ポイント

- SBO 1 意識障害のレベル（JCS、GCS）を説明できる
- SBO 2 意識障害をきたす疾患を列挙できる
- SBO 3 疾患を想定した、意識障害に対する初期対応（検査と治療の組み合わせ方）を順序立てて行うことができる
- SBO 4 初期対応した後の検査計画をたてることができる
- SBO 5 大人の痙攣の初期対応ができる
- SBO 6 てんかんと器質的疾患にもとづく痙攣を鑑別する方法を説明できる

（20）血液型と交差適合試験

- SBO 1 血液型判定の重要性を説明できる
- SBO 2 血液型判定を行うことができる
- SBO 3 血液型判定の記録を残すことができる

SBO 4 血液型判定や交叉適合試験における確認業務の重要性を述べることができる

SBO 5 輸血パックの交叉適合試験用の血液を正しく扱うことができる

SBO 6 交叉適合試験の種類を述べることができる

SBO 7 交叉適合試験を行って、記録を残すことができる

SBO 8 器具、血液を正しく廃棄できる

(2 1) Blood access の基本

SBO 1 点滴のルートを作ることができる

SBO 2 三方活栓の使い方を述べることができる

SBO 3 コネクターを正しく使うことができる

SBO 4 目的にあった針の種類を選ぶことができる

SBO 5 静脈留置針を用いてのルート確保の手順を説明できる

SBO 6 穿刺に適した部位を指摘できる

SBO 7 駆血帯で穿刺に適した場所の 10cm 中枢側を駆血できる

SBO 8 静脈留置針で穿刺し、カテーテルを正しく留置できる

SBO 9 留置後のカテーテルを固定できる

SBO10 必要に応じて一人でルート確保ができる

SBO11 点滴の流速を調節できる (小児用、成人用)

(2 2) 処方箋の書き方 (ダウン時、附属病院外で)

SBO 1 読める字で処方箋を書くことができる

SBO 2 薬剤ごとに、服用方法を指示することができる

SBO 3 サイン、あるいはスタンプ+印鑑が必要であることを説明できる

SBO 4 訂正を正しく行うことができる

SBO 5 外用薬の処方を行うことができる

SBO 6 使用開始日が違う薬剤を正しく処方することができる

SBO 7 使用時ごとに使用量が違う薬剤を正しく処方することができる

SBO 8 薬局からの問い合わせに対する対処法を述べることができる

SBO 9 医薬分業の意義を説明できる

(2 3) 心電図の取り方

SBO 1 間違わないように四肢誘導、胸部誘導をつけることができる

SBO 2 (疾患以外で) 異常な波形が出たときに、原因を推測、対処できる (アースの可否を含む)

SBO 3 患者さんの心理面に配慮できる

SBO 4 リードをつける粘着部 (金属+ペースト、ゼリー+絆創膏、アルコール棉+金属など) の種類を状況に応じて使える

(2 4) 医学文献の探し方

SBO 1 医学図書館の機能とサービスの概要を述べることができる

SBO 2 医学図書館を利用することができる

SBO 3 医学中央雑誌の概要を述べることができる

SBO 4 MEDLINE の概要を述べることができる

SBO 5 医学中央雑誌と MEDLINE を用いて検索することができる

SBO 6 問題点の抽出と、的確な情報の吟味の重要性を説明できる

- SBO 7 文献検索を行うことを習慣とする
- (25) 針刺し事故への対応
- SBO 1 針刺し事故の受傷機転の種類が列挙できる
- SBO 2 受傷機転別の予防法を述べることができる
- SBO 3 Standard precaution の重要性を述べるができる
- SBO 4 医療廃棄物を分類して廃棄できる (主に針、血液汚染物)
- SBO 5 針刺し事故時の連絡先と方法を述べるができる
- SBO 6 病原体別に感染成立の頻度を述べるができる
- SBO 7 針刺し事故後のフォローアップ期間と、フォローアップ項目を述べるができる
- (26) ICLS (Immediate Cardiac Life Support : 日本救急医学会)
- SBO 1 院内心肺停止患者に接して、緊急システムの立ち上げと人・物を集めることができる
- SBO 2 心電図モニターの電極を正しく装着してモニタリングができる
- SBO 3 モニター心電図を正しく診断できる
- SBO 4 気管内挿管の適応を判断できる
- SBO 5 気管内挿管ができる
- SBO 6 循環作動薬を適切に選択できる
- SBO 7 除細動の適応、手技、注意点について説明できる
- SBO 8 安全に除細動を行える
- SBO 9 ICLS のアルゴリズムに基づいて心肺停止患者の蘇生法を行うことができる
- SBO10 救急蘇生現場において蘇生チームのリーダーとして行動できる
- SBO11 心拍再開時に、次のプランをたてることができる
- SBO12 蘇生患者の家族のケアについて説明できる
- (27) 小外科の基本
- SBO 1 局所麻酔を行うことができる
- SBO 2 消毒を行うことができる
- SBO 3 適切な針、糸 (種類、太さ) を選択することができる
- SBO 4 デブリードマンの目的と方法および皮膚割線の意味について述べるができる
- SBO 5 縫合後の処置 (消毒・包交・抜糸など) の意味と方法について述べるができる
- SBO 6 咬創・皮下異物の処置について述べるができる
- SBO 7 破傷風トキソイド、破傷風免疫グロブリン投与の適応と投与方法について説明することができる
- SBO 8 外出血に対する応急止血法を実施することができる
- SBO 9 結節縫合を実施することができる
- SBO10 皮下膿瘍を切開・排膿できる
- SBO11 適切な説明と声かけを行うことができる
- SBO12 専門医に送るべき複雑な創傷を区別できる

高知大学歯科医師臨床研修プログラム（複合型）

研修歯科医定員：2名

研修期間：平成30年4月1日より平成31年3月31日までの1年間

研修期間割り：高知県歯科医師会歯科保健センターでの障害児・者歯科診療への参加を高知大学の研修期間中である4月に4日間行う。

| | 4月～7月 | 8月～11月 | 12月～3月 |
|--------|---------|--------|--------|
| 研修歯科医① | 高知大学 | A 歯科 | B 歯科 |
| 研修歯科医② | 高知大学 | C 歯科 | D 歯科 |
| | (基本コース) | | |

*A～D 歯科は、アーク歯科・矯正歯科クリニック、あさぎ歯科医院、大野歯科、織田歯科医院、さんさんクリニックー歯科、嶋本歯科医院、田岡歯科・矯正歯科クリニック、松木歯科医院、森本歯科診療所より選択する。

研修目標：

1. 歯科医師としての基礎的な知識、技術を習得し、全人的対応のできる能力、態度を養う。
2. 歯科および歯科口腔外科疾患に対して、適切な診察・検査を行い、それらを総合的に評価して適確な診断が行える能力を養う。
3. 一般歯科診療に即し、口腔外科から保存、補綴、小児歯科、矯正などに至る、歯科全般を統合した診療知識と技術を習得する。
4. 歯科口腔外科医として、病院における診療の諸機能を学ぶとともに、全身的疾患に対する理解を深め、その口腔管理を修得し、口腔外科の基本的な手術手技を学ぶ。
5. 従たる施設で地域により密着した実地臨床ならびに訪問歯科診療を学ぶとともに、かかりつけ歯科医師としての役割を修得する。

歯科医師臨床研修プログラム・基本コース（別紙2を参照）

【一般目標】：独立診療が実施できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。さらには、生涯にわたる研修を行うために、より広範囲の歯科医療について知識、態度、技能を習得する態度を養う。

（1）医療面接

【一般目標】

患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度、技能を身に付け実践する。

【行動目標】

- SBO 1 コミュニケーション・スキルを実践できる
- SBO 2 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）聴取を的確に行うことができる
- SBO 3 病歴を正確に記録することができる
- SBO 4 患者の心理・社会的背景に配慮できる
- SBO 5 患者・家族に必要な情報を十分に提供できる
- SBO 6 患者の自己決定を尊重することができる（インフォームド・コンセントの構築）
- SBO 7 患者のプライバシーを守ることができる

SBO 8 患者の心身における QOL(Quality of Life) に配慮できる

SBO 9 患者教育と治療への動機付けを行うことができる

(2) 総合診療計画

【一般目標】

効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。

【行動目標】

SBO 1 適切で十分な医療情報を収集することができる

SBO 2 基本的な診査（基本的な検査を含む）を実践できる

SBO 3 基本的な診査の所見を判断することができる

SBO 4 得られた情報から診断することができる

SBO 5 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示することができる

SBO 6 十分な説明による患者の自己決定を作成することができる

SBO 7 一口腔単位の治療計画を作成することができる

(3) 予防・治療基本技術

【一般目標】

歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。

【行動目標】

SBO 1 基本的な予防法の手技を実施することができる

SBO 2 基本的な治療法の手技を実施することができる

SBO 3 医療記録を適切に作成することができる

SBO 4 医療記録を適切に管理することができる

(4) 応急処置

【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

【行動目標】

SBO 1 疼痛に対する基本的な治療を実践することができる

SBO 2 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践することができる

SBO 3 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践することができる

(5) 高頻度治療

【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

【行動目標】

SBO 1 う触の基本的な治療を実践することができる

SBO 2 歯髄疾患の基本的な治療を実践することができる

SBO 3 歯周疾患の基本的な治療を実践することができる

SBO 4 抜歯の基本的な処置を実践することができる

SBO 5 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践することができる

(6) 医療管理・地域医療

【一般目標】

歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身につける。

【行動目標】

- SBO 1 保険診療を実践することができる
- SBO 2 チーム医療を実践することができる
- SBO 3 地域医療に参画することができる

(7) 救急処置

【一般目標】

歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度、技能を習得する。

【行動目標】

- SBO 1 バイタルサインを観察し、異常を評価することができる
- SBO 2 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明することができる
- SBO 3 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明することができる
- SBO 4 歯科診療時の全身的合併症への対応法を説明することができる
- SBO 5 一次救命処置を実践することができる
- SBO 6 二次救命処置の対処法を説明することができる

(8) 医療安全・感染予防

【一般目標】

円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度、技能を習得する。

【行動目標】

- SBO 1 医療安全対策を説明することができる
- SBO 2 アクシデント、インシデントを説明することができる
- SBO 3 医療過誤について説明することができる
- SBO 4 院内感染対策（Standard Precautions を含む）を説明することができる
- SBO 5 院内感染対策を実施することができる

(9) 経過評価管理

【一般目標】

自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度、技能を習得する。

【行動目標】

- SBO 1 リコールシステムの重要性を説明することができる
- SBO 2 治療の結果を評価することができる
- SBO 3 予後を推測することができる

(10) 予防・治療技術

【一般目標】

生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。

【行動目標】

- SBO 1 専門的な分野の情報を収集することができる

SBO 2 専門的な分野を体験することができる

SBO 3 POS (Problem Oriented System) に基づいた医療を説明することができる

SBO 4 EBM (Evidence Based Medicine) に基づいた医療を説明することができる

(11) 医療管理

【一般目標】

適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。

【行動目標】

SBO 1 歯科医療機関の経営管理を説明することができる

SBO 2 常に、必要に応じて医療情報の収集を行うことができる

SBO 3 適切な放射線管理を実践することができる

SBO 4 医療廃棄物を適切に処理することができる

SBO 5 保険診療を実践することができる

SBO 6 チーム医療を実践することができる

(12) 地域医療

【一般目標】

歯科診療を適切に行うために、地域医療について知識、態度、技能を習得する。

【行動目標】

SBO 1 地域歯科保健活動を説明することができる

SBO 2 歯科訪問診療を説明することができる

SBO 3 歯科訪問診療を体験することができる

SBO 4 医療連携を説明することができる

SBO 5 地域医療に参画することができる

| 1. 基本コース | | | | | | |
|---|-------------------------------|--|--------|--|---|--|
| (1) 医療面接 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
| 【一般目標】 | | / | / | / | / | / |
| 患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度、技能を身に付け実践する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | コミュニケーション・スキルを実践する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | 5症例 | 上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。 | 医療面接の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(すべての流れを経験することが望ましい)。 | 目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただしSBO1からSBO9までの行動目標を経験していることが望ましい。 |
| SBO2 | 病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴)の聴取を的確に行う。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |
| SBO3 | 病歴を正確に記録する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |
| SBO4 | 患者の心理・社会的背景に配慮する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |
| SBO5 | 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |

| | | | | | | |
|------|-------------------------------------|--|--|--|--|--|
| SBO6 | 患者の自己決定を尊重する。(インフォームドコンセントの構築) | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |
| SBO7 | 患者のプライバシーを守る。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |
| SBO8 | 患者の心身におけるQOL(Quality of Life)に配慮する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |
| SBO9 | 患者教育と治療への動機付けを行う。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 | | | | |

| (2)総合診療計画 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--|--------------------|---|--------|--|--|--|
| 【一般目標】 | | / | / | 上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。 | 診察や検査の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(すべての流れを経験することが望ましい)。 | 目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただしSBO1からSBO7までの行動目標を経験していることが望ましい。 |
| 効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 適切で十分な医療情報を収集する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | 5症例 | | | |
| SBO2 | 基本的な診察・検査を実践する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察(歯周検査、う蝕検査、歯髄検査、エックス線検査、MRI検査、CT検査、核医学検査、胸部単純エックス線写真の読影、血液検査、止血機能検査、循環機能検査、呼吸機能検査など) 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | | | | |
| SBO3 | 基本的な診察・検査の所見を判断する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | | | | |
| SBO4 | 得られた情報から診断する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | | | | |

| | | | | | | |
|------|-------------------------|---|--|--|--|--|
| SBO5 | 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | | | | |
| SBO6 | 十分な説明による患者の自己決定を確認する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | | | | |
| SBO7 | 一口腔単位の治療計画を作成する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表 | | | | |

| (3) 予防・治療基本技術 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|---|------------------|--|--------|---|---|---|
| 【一般目標】 | | / | / | 上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医師の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。 | 治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(すべての流れを経験することが望ましい)。 | 目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただしSBO1からSBO4までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。 |
| 歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 基本的な予防法の手技を実施する。 | 1) う蝕予防と管理(リスク判定、ブラッシング指導、フッ素塗付、予防填塞、食生活指導) 2) 歯周病予防と管理(リスク判定、プラークコントロール、予防的スクレーリング、メンテナンス) | 5症例 | | | |
| SBO2 | 基本的な治療法の手技を実施する。 | 1) 充填物や補綴物の除去 2) 感染歯質の除去 3) 歯冠修復 4) 根管治療 5) 義歯調整など | | | | |
| SBO3 | 医療記録を適切に作成する。 | 診療録、処方箋、歯科技工指示書、医療情報提供書、診断書、保険レセプトなどを適切に作成 | | | | |
| SBO4 | 医療記録を適切に管理する。 | 診療録、処方箋、歯科技工指示書、医療情報提供書、診断書、保険レセプトなどを適切に管理 | | | | |

| (4) 応急処置 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--|--------------------------------------|---|--------|--|---|---|
| 【一般目標】 | | / | / | 上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を担当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。 | 治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(すべての流れを経験することが望ましい)。 例①: 問診→縫合→消毒・経過 例②: 問診→2次カリエスの除去・再合着→経過 | 目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただしSBO1からSBO3までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。 |
| 一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 疼痛に対する基本的な治療を実践する。 | 1) 局所麻酔 2) 知覚過敏処置 3) 歯髄処置(覆髄法) 4) 排膿処置 5) 内服、注射処方箋の作成など | 5症例 | | | |
| SBO2 | 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。 | 1) 止血処置 2) 縫合法 3) 抜糸 4) 歯の脱臼処置 など | | | | |
| SBO3 | 修復物・補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する基本的な処置を実践する。 | 1) 補綴物の除去 2) 2次カリエスの除去 3) 暫間充填 4) 再合着 など | | | | |

| (5) 高頻度治療 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--|----------------------|--|--------|--|---|---|
| 【一般目標】 | | / | / | 上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。 | 治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(すべての流れを経験することが望ましい)。 例①: 問診→う蝕除去→支台歯形成→印象採得→装着 例②: 歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過 | 目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただしSBO1からSBO5までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。 |
| 一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 齲蝕の基本的な治療を実践する。 | 1) う蝕病巣の除去と修復処置 2) 窩洞形成、支台歯形成 3) 印象採得、咬合採得 4) 補綴物の装着など | 5症例 | | | |
| SBO2 | 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。 | 1) 知覚過敏処置 2) 歯髄処置 (覆髄法、断髄法、抜髄法) 3) 感染根管処置 4) 支台築造 など | | | | |
| SBO3 | 歯周疾患の基本的な治療を実践する。 | 1) 歯周基本治療 2) 歯周外科処置 3) 固定 4) 歯周病のメンテナンス治療 | | | | |
| SBO4 | 抜歯の基本的な治療を実践する。 | 1) 単純抜歯 2) 智歯抜歯 | | | | |
| SBO5 | 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。 | 1) 歯冠補綴治療 2) 部分床義歯治療 3) 全部床義歯治療 | | | | |

| (6) 医療管理・地域医療 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--|-------------|--|--------|--|---|---|
| 【一般目標】 | | / | / | 上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。 | 治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える(すべての流れを経験することが望ましい)。 | 目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただしSBO1からSBO3までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。 |
| 歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身につける。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 保険診療を実践する。 | 1) 保険診療の体系や原則を当科内で行われる研修医セミナーで学習 2) 保険診療の規定に沿った治療を行い、診療記録に記載 3) 歯科診療保険請求のチェック | 5症例 | | | |
| SBO2 | チーム医療を実践する。 | 1) 専門医やかかりつけ医へのコンサルテーション 2) 他科、他施設への患者の医療情報提供 3) 医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、放射線技師などとのチーム医療 4) 小児、高齢者、リスク患者、要介護者などの治療における保護者、介護者、付添いの家族、看護婦などとのチーム医療 5) 他科との共診治療(全身疾患を有する患者) | | | | |
| SBO3 | 地域医療に参画する。 | 研修協力施設での診療補助 | | | | |

| (7)救急処置 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|---|-------------------------|--|-----------|-----------------------------|---------|--|
| 【一般目標】 | | / | / | 各研修歯科医を担当する指導歯科医による口頭試問を行う。 | | 口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価が3以上を2例以上取得することが必要。 |
| 歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度、技能を習得する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | バイタルサインを観察し、異常を評価する。 | 1) 大学および当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 意識の確認、脈拍の触診、血圧計や酸素飽和度測定機器の使用法の習得 | 2症例(口頭試問) | | | |
| SBO2 | 服用薬剤の歯科診療に関する副作用を説明する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 口頭試問 | | | | |
| SBO3 | 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 口頭試問 | | | | |
| SBO4 | 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 口頭試問 | | | | |
| SBO5 | 一次救命処置を実践する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 口頭試問 | | | | |
| SBO6 | 二次救命処置の対処法を説明する。 | 1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 口頭試問 | | | | |

| (8)医療安全・感染予防 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--|--|--|------------------------------|------------|---------|---|
| 【一般目標】 | | | | | | 必修となっているセミナーや研修会への参加およびe-learningの受講により修了とする。 |
| 円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度、技能を習得する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 医療安全対策を説明する。 | 新採用研修医へのオリエンテーションでの関連講義への参加、病院で開催される医療安全研修会および感染対策研修会への参加、文献検索 | 医療安全研修会および感染対策研修会にそれぞれ2回以上出席 | | | |
| SBO2 | アクシデント及びインシデントを説明する。 | | | | | |
| SBO3 | 医療過誤について説明する。 | | | | | |
| SBO4 | 院内感染対策(Standard Precautionsを含む。)を説明する。 | | | | | |
| SBO5 | 院内感染対策を実践する。 | | | | | |

| (9)経過評価管理 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--|--------------------|-------------------|-----------|--|---------|--|
| 【一般目標】 | | / | / | 各研修歯科医を担当する 上級歯科医・指導歯科医 を決め、症例発表の際に サポート等を行う。 | | 症例発表は指導歯科医 が評価(5段階)を行い、 目標達成の基準とし て、評価が3以上を1例 以上取得することが必 要。 |
| 自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断 及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態 度、技能を習得する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | リコールシステムの重要性を説明する。 | 症例検討会に参加、症例 発表 | 1症例(口頭試問) | | | |
| SBO2 | 治療の結果を評価する。 | 症例検討会に参加、症例 発表 | | | | |
| SBO3 | 予後を推測する。 | 症例検討会に参加、症例 発表 | | | | |

| (10) 予防・治療技術 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--------------------------------|---|---------------------------------|-----------|-----------------------------|---------|--|
| 【一般目標】 | | / | / | 各研修歯科医を担当する指導歯科医による口頭試問を行う。 | | 口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価が3以上を1例以上取得することが必要。 |
| 生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 専門的な分野の情報を収集する。 | 医学・生物学分野の学術文献検索による情報収集法を習得、口頭試問 | 1症例(口頭試問) | | | |
| SBO2 | 専門的な分野を体験する。 | 当科の専門外来の診療見学、症例検討会への参加 | | | | |
| SBO3 | POS(Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する。 | Problem listを整理し、SOAPに従った診療録を記述 | | | | |
| SBO4 | EBM(Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する。 | 当科内で行われる抄読会に参加 | | | | |

| (11) 医療管理 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|---|---------------------|---|-----------|--|---------|--|
| 【一般目標】 | | / | / | 各研修歯科医を担当する 上級歯科医・指導歯科医 を決め、レポート作成の際 にサポート等を行う。 | | レポートは指導歯科医 が評価を行い、目標達 成の基準として、評価 が3以上のレポートを1 例以上提出することが 必要。 |
| 適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲 な歯科医師の社会的役割を理解する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 歯科医療機関の経営管理を説明する。 | 医療管理関連セミナーへ参加、 文献検索、レポートの作成、グ ループ討論 | 1症例(レポート) | | | |
| SBO2 | 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う | | | | | |
| SBO3 | 適切な放射線管理を実践する。 | | | | | |
| SBO4 | 医療廃棄物を適切に処理する。 | | | | | |

| (12)地域医療 | | 研修内容 | 必要な症例数 | 研修歯科医の指導体制 | 症例数の数え方 | 修了判定の評価基準 |
|--------------------------------------|----------------|-------------------|--------|-----------------------------|--------------------------|--|
| 【一般目標】 | | / | / | 各研修歯科医を担当する指導歯科医による口頭試問を行う。 | 歯科訪問診療を経験した場合を1症例として数える。 | 口頭試問は指導歯科医が評価(5段階)を行い、目標達成の基準として、評価が3以上を1例以上取得することが必要。 |
| 歯科診療を適切に行うために、地域医療について知識、態度、技能を習得する。 | | | | | | |
| 【行動目標】 | | | | | | |
| SBO1 | 地域歯科保健活動を説明する。 | 文献・インターネット検索、口頭試問 | 1例 | | | |
| SBO2 | 歯科訪問診療を説明する。 | 文献・インターネット検索、口頭試問 | | | | |
| SBO3 | 歯科訪問診療を体験する。 | 研修協力施設での体験 | | | | |
| SBO4 | 医療連携を説明する。 | 文献・インターネット検索、口頭試問 | | | | |